

目次

総合生命理学部

＜総合生命理学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	12
4. AC対象学部等を含む大学等の状況	14
5. 教員組織の状況	18
6. 留意事項等に対する履行状況等	35
7. その他全般的事項	37

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

公立大学法人名古屋市立大学

(2) 大学名 名古屋市立大学

(3) 大学の位置

〒467-8501 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1番地
〒467-8601 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地
〒467-8603 愛知県名古屋市瑞穂区田辺通3丁目1番地
(〒467-8601 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(コオリ ケンジロウ) 郡 健二郎 (平成30年4月)		
学長	(コオリ ケンジロウ) 郡 健二郎 (平成30年4月)		
学部長	(ユカワ ヤスシ) 湯川 泰 (平成30年4月)		
学科長等	該当なし		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成29年度に報告済の内容 → (29)

平成30年度に報告する内容 → (30)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部/学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
 ・ 様式は, 平成27年度開設の4年制の学科の場合(平成30年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
総合生命理化学部 総合生命理学科 学士(理学)	理学関係	4年	40人	年次 人 -	160人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度		平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	人 40 (-) [-]	人 - (-) [-]	人 - (-) [-]	人 - (-) [-]	人 - (-) [-]	人 - (-) [-]	人 - (-) [-]	人 - (-) [-]	1.00倍	
志願者数	165 (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]		
受験者数	92 (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]		
合格者数	46 (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]		
B 入学者数	40 (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]		
入学定員超過率 B/A	1.00		-		-		-			

- (注) ・ 数字は, 平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ ()内には, 編入学の状況について外数で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (())書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 転入学生は記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, 各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度		備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	40 [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	
2年次	/		- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	
3年次			/		- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)
4年次	/				- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)
計			40 [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)

- (注) ・ 数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由
			入学した年度	退学者数	退学者数のうち留学生数	
平成30年度	40人	0人	平成30年度	0人	0人	
平成31年度	-人	-人	平成30年度	-人	-人	
			平成31年度	-人	-人	
平成32年度	-人	-人	平成30年度	-人	-人	
			平成31年度	-人	-人	
			平成32年度	-人	-人	
平成33年度	-人	-人	平成30年度	-人	-人	
			平成31年度	-人	-人	
			平成32年度	-人	-人	
			平成33年度	-人	-人	
合計	40人	0人				

(注)・数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。

- 各年度の在学者数については、該当年度に在学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- 在学者数や退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{40} = \boxed{0} \%$$

【平成31年度】

$$\frac{\text{平成31年度の退学者数(a)}}{\text{平成31年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【平成32年度】

$$\frac{\text{平成32年度の退学者数(a)}}{\text{平成32年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【平成33年度】

$$\frac{\text{平成33年度の退学者数(a)}}{\text{平成33年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<総合生命理学部 総合生命理学科>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
大学 特色 科目	社会人になるA	1前	2								1
	社会人になるB	1後	2								1
	現代社会と人と地域のつながり	1前	2								1
	名古屋市政を通して みる現代社会の 諸問題	1前	2								1
	ESDと地域の環境	1後	2								1
現代 社会 の 諸 相	なぜ憲法が必要なのか	1前	2								1
	日本国憲法	1前	2								1
	法学入門	1後	2								1
	経済学:経済学の 考え方	1前	2			1		1			1
	経営学:企業活動 の諸相	1後	2								1
	社会学A	1後	2								2
	社会学B	1後	2								1
	平和論	1後	2								4
	私たちの暮らしと 政治・行政・地方自 治	1前	2								1
	国際政治と社会	1前	2								1
文化 と 人 間 性 の 探 求	琉球・沖縄の歴史・ 文化を識る	1前	2		1						1
	囲碁に学ぶ	1後	2								1
	死の文化学	1後	2								1
	東ヨーロッパの文 化と歴史	1後	2								1
	文化に見る歴史	1前	2			1					2
	欧州史の中の北欧 史	1後	2								1
	アメリカ史入門	1前	2								1
	都市と地域構造の 地理学	1前	2								1
	音楽と文化	1前	2								1
	自分とみんなで考 える哲学	1前	2								1
	討論の中で問題を 発見する哲学	1後	2								1
	応用倫理学－生命 倫理の現在	1前	2								1

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
大学 特色 科目	社会人になるA	1前	2								1
	社会人になるB	1後	2								1
	現代社会と人と地域のつながり	1前	2								1
	名古屋市政を通して みる現代社会の 諸問題	1前	2								1
	ESDと地域の環境	1後	2								1
現代 社会 の 諸 相	なぜ憲法が必要なのか	1前	2								1
	日本国憲法	1前	2								1
	法学入門	1後	2								1
	経済学:経済学の 考え方	1前	2			1		1			1
	経営学:企業活動 の諸相	1後	2								1
	社会学A	1後	2								2
	社会学B	1後	2								1
	平和論	1後	2								3
	私たちの暮らしと 政治・行政・地方自 治	1前	2								1
	国際政治と社会	1前	2								1
文化 と 人 間 性 の 探 求	琉球・沖縄の歴史・ 文化を識る	1前	2		1						1
	囲碁に学ぶ	1後	2								1
	死の文化学	1後	2								1
	東ヨーロッパの文 化と歴史(未開講)	1後	2								1
	文化に見る歴史	1前	2			1					2
	欧州史の中の北欧 史	1後	2								1
	アメリカ史入門	1前	2								1
	都市と地域構造の 地理学	1前	2								1
	音楽と文化	1前	2								1
	自分とみんなで考 える哲学	1前	2								1
	討論の中で問題を 発見する哲学	1後	2								1
	応用倫理学－生命 倫理の現在	1前	2								1

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
文化と人間性の探求	宗教学入門	1後		2							1
	心理学概論	1後		2							1
	心理学入門	1後		2							1
	現代教育の諸相	1前		2							2
	次世代育成と地域の課題	1後		2							2
人間と自然	科学史	1後		2							1
	環境と社会・制度・政治・経済	1前		2							1
自然と数理解の探求	行動生態学	1前		2			1				
	植物とバイオテクノロジー	1前		2		1					
	バイオサイエンス入門	1後		2		1	1				
英語	IS: Community	1前・後		1							1
	IS: Social Justice	1前・後		1							1
	IS: Life & Work	1前・後		1							1
	IS: Health & Well-being	1前・後		1							1
	IS: The Arts	1前・後		1							1
	AE: Make a Difference in Your Community	1前・後		2							1
	AE: Interact Internationally	1前・後		2							1
	AE: Improve Life Skills	1前・後		2							1
	AE: Raise Health/Environmental Awareness	1前・後		2							1
	AE: Produce a Movie	1前・後		2							1
	CS: Presentation	1前・後		2							4
	CS: Grammar and Usage	1前・後		2							2
	EM: World News	1前・後		2							1
	EM: Popular Culture	1前・後		2							1
EM: Reading for Inspiration	1前・後		2							3	
EM: Online Articles and Videos	1前・後		2							1	
その他の言語	ドイツ語初級1	1前		2							1
	ドイツ語初級2	1後		2							1
	フランス語初級1	1前		2							1
	フランス語初級2	1後		2							1

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
文化と人間性の探求	宗教学入門	1前		2							1
	心理学概論	1後		2							1
	心理学入門	1後		2							1
	現代教育の諸相	1前		2							2
	次世代育成と地域の課題	1後		2							2
人間と自然	科学史	1後		2							1
	環境と社会・制度・政治・経済	1前		2							1
自然と数理解の探求	行動生態学	1前		2			1				
	植物とバイオテクノロジー	1前		2		1					
	バイオサイエンス入門	1後		2		1	1				
英語	IS: Community	1前・後		1							1
	IS: Social Justice	1前・後		1							2
	IS: Life & Work	1前・後		1							1
	IS: Health & Well-being	1前・後		1							1
	IS: The Arts	1前・後		1							2
	AE: Make a Difference in Your Community	1前・後		2							1
	AE: Interact Internationally	1前・後		2							1
	AE: Improve Life Skills	1前・後		2							2
	AE: Raise Health/Environmental Awareness	1前・後		2							1
	AE: Produce a Movie	1前・後		2							2
	CS: Presentation	1前・後		2							6
	CS: Grammar and Usage	1前・後		2							3
	EM: World News	1前・後		2							4
	EM: Popular Culture	1前・後		2							5
EM: Reading for Inspiration	1前・後		2							5	
EM: Online Articles and Videos	1前・後		2							5	
その他の言語	ドイツ語初級1	1前		2							1
	ドイツ語初級2	1後		2							1
	フランス語初級1	1前		2							1
	フランス語初級2	1後		2							1

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
その他の言語	中国語初級1	1前		2								1
	中国語初級2	1後		2								1
情報科目	情報処理基礎	1前	2				1					
	情報処理応用	1後	2				1					
健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学	1前	2			1		1				5
	健康・スポーツ実技	1後		1								1
生物学	基礎生物学	1前	2			1						
	生物学	1後	2				1					
化学	化学基礎	1前		2			1					
	化学熱力学基礎	1前		2			1					
	有機化学	1後		2			1					
物理学	物理学基礎	1前		2			1					
	力学	1前		2				1				
	電磁気学	1後		2				1				
	波動・熱力学	1後		2				1				
数学・統計学	微分積分学	1前	2				1	1				
	線形代数学I	1前	2				1	1				
	線形代数学II	1後		2			2					
	統計学B	1後		2			1					
学自然実験科	自然科学実験	1後	1			5	8					
専門基礎科目	総合理学概論A	1後	2			5	4	1				
	総合理学概論B	1後	2			5	6					
	総合理学実験入門	1前	1			1	2					
	生命科学実験	2前		2		3	2	1				
	物質科学実験	2前		2		2	4					
	生態学	2後		2			1					
	基礎生理学	2前		2		1						
	適応生理学	2前		2		1						1
	進化学 I	2前		2		1						
	生物統計学	2後		2								1
	生命情報学 I	2後		2		2						
生化学	2前		2			1						

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
その他の言語	中国語初級1	1前		2								1
	中国語初級2	1後		2								1
情報科目	情報処理基礎	1前	2				1					
	情報処理応用	1後	2					1				
健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学	1前	2				1		1			4
	健康・スポーツ実技	1後		1								1
生物学	基礎生物学	1前	2				1					
	生物学	1後	2					1				
化学	化学基礎	1前		2				1				
	化学熱力学基礎	1前		2				1				
	有機化学	1後		2				1				
物理学	物理学基礎	1前		2			1					
	力学	1前		2					1			
	電磁気学	1後		2					1			
	波動・熱力学	1後		2					1			
数学・統計学	微分積分学	1前	2				1	1				
	線形代数学I	1前	2				1	1				
	線形代数学II	1後		2			2					
	統計学B	1後		2			1					
学自然実験科	自然科学実験	1後	1			5	8					
専門基礎科目	総合理学概論A	1後	2			5	4	1				
	総合理学概論B	1後	2			5	6					
	総合理学実験入門	1前	1			1	2					
	生命科学実験	2前		2		3	2	1				
	物質科学実験	2前		2		2	4					
	生態学	2後		2				1				
	基礎生理学	2前		2		1						
	適応生理学	2前		2		1						1
	進化学 I	2前		2		1						
	生物統計学	2後		2								1
	生命情報学 I	2後		2		2						
生化学	2前		2			1						

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎科目	分子生理学	2後		2				1				
	細胞生物学	2後		2		1						
	分子生物学 I	2後		2		1						
	物理化学	2前		2			1					
	有機元素化学	2後		2		1						
	物理数学	2前		2		1	1					
	地学概論	2後		2		1	1					
	幾何学	2前		2		1						
	代数学	2前		2		1						
	解析学	2前		2							1	
プログラミング I	2後		2			1		1				
情報処理発展	2前	2				1		1				
生命科学科目	生態測定学	3後		2			1					1
	応用生理学	3前		2		1		1				
	古生物学	3後		2								1
	進化学II	3前		2		1						
	生命情報学 II	3前		2								1
	植物生理学	3前		2		2						
	応用生物学	3前		2		1						
	発生生物学	3前		2								1
	生物機能化学	3前		2			2					
	分子遺伝学	3前		2			1					
	分子生物学 II	3後		2			1					
	クロマチン生物化学	3後		2								1
	総合神経科学	3後		2								2
	放射線生物学	3後		2								7
生命科学各論	4前		1								1	
物質科学科目	機器分析化学	3前		2		1	1					
	量子力学	2後		2			2					
	統計力学	3前		2			1					
	物性物理学	3前		2			2					
	天体物理学	3後		2		1	1					
	物質科学各論	4前		1								1

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎科目	分子生理学	2後		2					1			
	細胞生物学	2後		2		1						
	分子生物学 I	2後		2		1						
	物理化学	2前		2				1				
	有機元素化学	2後		2		1						
	物理数学	2前		2		1	1					
	地学概論	2後		2		1	1					
	幾何学	2前		2		1						
	代数学	2前		2		1						
	解析学	2前		2								1
プログラミング I	2後		2			1		1				
情報処理発展	2前	2				1		1				
生命科学科目	生態測定学	3後		2			1					1
	応用生理学	3前		2		1		1				
	古生物学	3後		2								1
	進化学II	3前		2		1						
	生命情報学 II	3前		2								1
	植物生理学	3前		2		2						
	応用生物学	3前		2		1						
	発生生物学	3前		2								1
	生物機能化学	3前		2			2					
	分子遺伝学	3前		2			1					
	分子生物学 II	3後		2			1					
	クロマチン生物化学	3後		2								1
	総合神経科学	3後		2								2
	放射線生物学	3後		2								7
生命科学各論	4前		1								1	
物質科学科目	機器分析化学	3前		2		1	1					
	量子力学	2後		2			2					
	統計力学	3前		2			1					
	物性物理学	3前		2			2					
	天体物理学	3後		2		1	1					
	物質科学各論	4前		1								1

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
数理情報科学科目	幾何・代数学	2後		2		2						
	応用統計学	3前		2								1
	情報数学A	3前		2			1					
	情報数学B	3後		2		1						
	プログラミングⅡ	3前		2		1			1			
	数理情報科学各論	4前		1								1
卒業研究関連科目	総合理学実習	3前	3			10	9	1				
	専門演習Ⅰ	3後	2			10	9	1				
	専門演習Ⅱ	4前	2			10	9	1				
	専門演習Ⅲ	4後	2			10	9	1				
	卒業研究Ⅰ	3後	4			10	9	1				
	卒業研究Ⅱ	4前	4			10	9	1				
	卒業研究Ⅲ	4後	4			10	9	1				
外国語科目	自然科学英語	2後	2									1
	グローバルコミュニケーション	3前	2									1
専門関連科目	総合博物学	2前		2		1						7
	教職概論2	2後			2							1
	教育学概論2	2前			2							1
	学校教育心理学	2後			2							1
	教育制度論	3後			2							2
	教育社会学	2前			2							1
	教育内容論1(教育課程論)	3前			2							1
	理科教育法1	3前			2							1
	理科教育法2	3後			2							1
	特別活動論	2後			2							1
	教育方法論2	3後			2							1
	生徒・進路指導論	2前			2							1
	教育相談	3後			2							1
	高等学校教育実習	4通			3							1
教職実践演習	4後			2	1						1	

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
数理情報科学科目	幾何・代数学	2後		2		2						
	応用統計学	3前		2								1
	情報数学A	3前		2			1					
	情報数学B	3後		2		1						
	プログラミングⅡ	3前		2		1			1			
	数理情報科学各論	4前		1								1
卒業研究関連科目	総合理学実習	3前	3			10	9	1				
	専門演習Ⅰ	3後	2			10	9	1				
	専門演習Ⅱ	4前	2			10	9	1				
	専門演習Ⅲ	4後	2			10	9	1				
	卒業研究Ⅰ	3後	4			10	9	1				
	卒業研究Ⅱ	4前	4			10	9	1				
	卒業研究Ⅲ	4後	4			10	9	1				
外国語科目	自然科学英語	2後	2									1
	グローバルコミュニケーション	3前	2									1
専門関連科目	総合博物学	2前		2		1						7
	教職概論2	2後			2							1
	教育学概論2	2前			2							1
	学校教育心理学	2後			2							3
	教育制度論	3後			2							2
	教育社会学	2前			2							2
	教育内容論1(教育課程論)	3前			2							1
	理科教育法1	3前			2							1
	理科教育法2	3後			2							1
	特別活動論	2後			2							1
	教育方法論2	3後			2							1
	生徒・進路指導論	2前			2							1
	教育相談	3後			2							1
	高等学校教育実習	4通			3							1
教職実践演習	4後			2	1						1	

- (注) ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 ・ 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。
 その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。
 ・ 1ページ目には認可時又は届出時と平成30年度の表を記入してください。
 ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。
 (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・「平和論」の担当教員数を変更（4名→3名）
- ・兼任教員の変更に伴い、「宗教学入門」の開講学期を「後期」から「前期」へ変更
- ・記載誤りがあったため、「行動生態学」の科目区分を「自然と数理の探求」から「人間と自然」へ変更
- ・教育効果を高めるため、科目区分「英語」の科目の担当教員を追加
- ・「健康・スポーツ科学」の担当教員（兼任）1名が就任辞退
- ・教職課程認定申請に係る指摘対応のため、「学校教育心理学」及び「教育社会学」の担当教員を追加
- ・教職課程認定申請に係る指摘対応のため、「教育内容論1（教育課程論）」の科目名称を「教育課程論」へ変更

- (注) ・ 変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
- ・ 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
21 科目	116 科目	15 科目	152 科目	21 科目 [0]	116 科目 [0]	15 科目 [0]	152 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり, 何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{152} = \boxed{0}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が, 「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校舎敷地	173,944.71 m ²	0 m ²	0 m ²	173,944.71 m ²				
	運動場用地	2,175.00 m ²	0 m ²	0 m ²	2,175.00 m ²				
	小 計	176,119.71 m ²	0 m ²	0 m ²	176,119.71 m ²				
	そ の 他	25,946.45 m ²	0 m ²	0 m ²	25,946.45 m ²				
	合 計	206,066.16 m ²	0 m ²	0 m ²	206,066.16 m ²				
(2) 校 舎	専 用	134,968.51 m ²	共 用	0 m ²	共用する他の 学校等の専用	0 m ²	計	134,968.51 m ²	
	(134,968.51 m ²)	(0 m ²)	(0 m ²)	(0 m ²)	(134,968.51 m ²)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	30 室	9 室	25 室	4 室 (補助職員 0 人)	0 室 (補助職員 0 人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数		平成30年4月 専任教授1名を新規 採用のため(授業科目 の担当は、AC教員審査 受審後)(30)			
	総合生命理学部 総合生命理学科			23 22 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書	学術雑誌		視聴覚資料	機械・器具	標 本	図書、学術雑誌、視聴覚 資料は学部単位での特定 不能なため、簿子キャン パス全体の数。 視聴覚資料の計上方法 は、今回より「文科省学 術情報基盤実態調査」で の報告に準じた(マイク ロ資料除外、及び種類数 から点数へ変更)ため、 前回より減少。電子 ジャーナル数はキャンパ ス単位の計上が困難な ため、今回より全学数(30) 機械・器具、標本は教育 環境の充実を図るため に整備(30)	
		[うち外国書]	[うち外国書]	電子ジャーナル					点
	冊	種	[うち外国書]	点	点	点			
	総合生命理学部	566,812 [181,747] 564,600 [181,022] (566,812 [181,747]) (564,541 [180,995])	6,664 [2,222] 6,649 [2,208] (6,664 [2,222]) (6,649 [2,208])	19,706 [18,674] 3,297 [3,297] (19,706 [18,674]) (3,297 [3,297])	411 629 (411) (629)	594 425 (594) (425)	4,562 2,209 (4,562) (2,209)		
計	566,812 [181,747] 564,600 [181,022] (566,812 [181,747]) (564,541 [180,995])	6,664 [2,222] 6,649 [2,208] (6,664 [2,222]) (6,649 [2,208])	19,706 [18,674] 3,297 [3,297] (19,706 [18,674]) (3,297 [3,297])	411 629 (411) (629)	594 425 (594) (425)	4,562 2,209 (4,562) (2,209)			
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数				
	7,785.00 m ²		516		777,972				
(7) 体 育 館	面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要						
	2,148.00 m ²		テニスコート、トレーニングルーム、フール、弓道場、野球場、馬場						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	30年度予算を反映 (30)
		教員1人当たり研究費等	481千円	472千円 481千円	図書購入費	5,073千円	5,137千円 5,249千円	5,137千円 5,249千円	
	共同研究費等	68,280千円	69,850千円 68,280千円	設備購入費	9,510千円	17,062千円	0千円		
	学生1人当たり 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	学生1人あたり納付金 の第1年次上段は名古屋 市民、下段はその他	
		767.8千円 867.8千円	535.8千円	535.8千円	535.8千円				
学生納付金以外の維持方法の概要		運営費交付金をもって充当する							

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成30年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(30)」を「備考」に赤字で記入してください。
- なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。

- ・ 校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少，建築計画の遅延）がある場合には，「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「（８）経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 AC対象学部等を含む大学等の状況

大学の名称	名古屋市立大学										備考
既設学部等の名称	修業年限	入定学員	編入学員	収容量	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年	設年度	所在地		
	年	人	年次人	人		倍					
総合生命理学部									愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1		
総合生命理学科	4	40	-	160	学士 (理学)	1.00	平成30年度		愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1		
医学部									愛知県名古屋市瑞穂区田辺通3丁目1番地		
医学科	6	97	-	578	学士 (医学)	1.00	昭和27年度		愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1		
薬学部									愛知県名古屋市瑞穂区田辺通3丁目1番地		
薬学科	6	60	-	360	学士 (薬学)	1.14	平成18年度		愛知県名古屋市瑞穂区田辺通3丁目1番地		
生命薬科学科	4	40	-	160	学士 (薬科学)	1.13	平成18年度		同上		
経済学部									愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1		
公共政策学科	4	90	-	360	学士 (経済学)	1.03	平成19年度		愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1		
マネジメントシステム学科	4	80	-	320	学士 (経営学)	1.03	平成19年度		同上		
会計ファイナンス学科	4	60	-	240	学士 (経営学)	1.03	平成19年度		同上		
人文社会学部									愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1		
心理教育学科	4	59	2	240	学士 (人文社会学)	1.07	平成25年度		愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1		
現代社会学科	4	67	6	280	学士 (人文社会学)	1.06	平成8年度		同上		
国際文化学科	4	68	4	280	学士 (人文社会学)	1.06	平成8年度		同上		

芸術工学部									
情報環境デザイン学科	4	30	-	120	学士 (芸術工学)	1.05	平成24年度	愛知県名古屋市千種区北千種2丁目1番10号	
産業イノベーションデザイン学科	4	30	-	120	学士 (芸術工学)	1.04	平成24年度	同上	
建築都市デザイン学科	4	40	-	160	学士 (芸術工学)	1.03	平成24年度	同上	
看護学部									
看護学科	4	80	-	326	学士 (看護学)	1.00	平成11年度	愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1	
医学研究科									
修士課程						1.10			
医科学専攻	2	10	-	20	修士 (医科学)	1.10	平成20年度	愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1	
博士課程						0.98			
生体機能・構造医学専攻	4	15	-	60	博士 (医学)	0.96	平成12年度	同上	
生体情報・機能制御医学専攻	4	15	-	60	博士 (医学)	0.98	平成12年度	同上	
生体防御・総合医学専攻	4	18	-	72	博士 (医学)	1.08	平成12年度	同上	
予防・社会医学専攻	4	4	-	16	博士 (医学)	0.62	平成12年度	同上	
薬学研究科									
博士前期課程						1.01			
創薬生命科学専攻	2	42	-	84	修士 (薬科学)	1.01	平成22年度	愛知県名古屋市瑞穂区田辺通3丁目1番地	
博士後期課程						0.44			
創薬生命科学専攻	3	8	-	24	博士 (薬科学)	0.54	平成24年度	同上	
共同ナノデザイン科学専攻	3	4	-	12	博士 (ナノデザイン科学)	0.25	平成25年度	同上	

博士課程						1.15			
医療機能薬学 専攻	4	10	-	40	博士 (薬学)	1.15	平成24年度	同上	
経済学研究科									
博士前期課程						0.56			
経済学専攻	2	20	-	40	修士 (経済学)	0.32	平成20年度	愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1	
経営学専攻	2	20	-	40	修士 (経済学) 修士 (経営学)	0.80	平成20年度	同上	
博士後期課程						0.33			
経済学専攻	3	3	-	9	博士 (経済学)	0.44	平成20年度	同上	
経営学専攻	3	2	-	6	博士 (経済学) 博士 (経営学)	0.16	平成20年度	同上	
人間文化研究科									
博士前期課程						1.12			
人間文化専攻	2	35	-	70	修士 (人間文化)	1.12	平成12年度	愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1	
博士後期課程						0.86			
人間文化専攻	3	5	-	15	博士 (人間文化)	0.86	平成14年度	同上	
芸術工学研究科									
博士前期課程						0.71			
芸術工学専攻	2	30	-	60	修士 (芸術工学)	0.71	平成12年度	愛知県名古屋市千種区北千種2丁目1番10号	
博士後期課程						0.60			
芸術工学専攻	3	5	-	15	博士 (芸術工学)	0.60	平成14年度	同上	

看護学研究科									
博士前期課程						0.72			
看護学専攻	2	24	-	48	修士 (看護学)	0.72	平成15年度	愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1	
博士後期課程						0.53			
看護学専攻	3	5	-	15	博士 (看護学)	0.53	平成17年度	同上	
システム自然科学研究科									
博士前期課程						0.69			
理学情報専攻	2	15	-	30	修士 (理学)	0.69	平成12年度	愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1	
博士後期課程						0.26			
理学情報専攻	3	5	-	15	博士 (理学)	0.26	平成14年度	同上	
(注意) 課程認定等により専攻・コースに入学定員を定めている場合は、専攻・コース別にも記入してください。(履修上の区分として専攻・コースを設けている場合は記入は不要です。)									
(注意) 学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。									

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部、学科)、大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について、それぞれの学校種ごとに、平成30年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等については、必ず記入するとともに、下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<総合生命理学部 総合生命理学科>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>			<就任(予定)年月>
		担当授業科目名			担当授業科目名
専	教授 (学部長)	植物生理学※ 分子生物学I 細胞生物学 生命科学実験※ 総合理学実習※ 総合理学概論A※ 卒業研究I 卒業研究II 卒業研究III 専門演習I 専門演習II 専門演習III 基礎生物学 自然科学実験※ バイオサイエンス入門	専	教授 (学部長)	植物生理学※ 分子生物学I 細胞生物学 生命科学実験※ 総合理学実習※ 総合理学概論A※ 卒業研究I 卒業研究II 卒業研究III 専門演習I 専門演習II 専門演習III 基礎生物学 自然科学実験※ バイオサイエンス入門
専	教授	幾何・代数学※ 幾何学 総合理学実習※ 総合理学概論B※ 卒業研究I 卒業研究II 卒業研究III 専門演習I 専門演習II 専門演習III 線形代数学II 線形代数学I	専	教授	幾何・代数学※ 幾何学 総合理学実習※ 総合理学概論B※ 卒業研究I 卒業研究II 卒業研究III 専門演習I 専門演習II 専門演習III 線形代数学II 線形代数学I
専	教授	幾何・代数学※ 代数学 総合理学実習※ 総合理学概論B※ 卒業研究I 卒業研究II 卒業研究III 専門演習I 専門演習II 専門演習III 線形代数学II 微分積分学	専	教授	幾何・代数学※ 代数学 総合理学実習※ 総合理学概論B※ 卒業研究I 卒業研究II 卒業研究III 専門演習I 専門演習II 専門演習III 線形代数学II 微分積分学
専	教授	応用生物学 植物生理学※ 生命科学実験※ 総合理学実習※ 総合理学概論A※ 総合理学実験入門※ 卒業研究I 卒業研究II 卒業研究III 専門演習I 専門演習II 専門演習III 自然科学実験※ 植物とバイオテクノロジー	専	教授	応用生物学 植物生理学※ 生命科学実験※ 総合理学実習※ 総合理学概論A※ 総合理学実験入門※ 卒業研究I 卒業研究II 卒業研究III 専門演習I 専門演習II 専門演習III 自然科学実験※ 植物とバイオテクノロジー

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>	<就任(予定)年月>
		担当授業科目名	担当授業科目名
専	教授	生命情報学Ⅰ※ 進化学Ⅰ 生命科学実験※ 総合理学実習※ 総合理学概論A※ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 専門演習Ⅲ 総合博物館※ 化学熱力学基礎 自然科学実験※	生命情報学Ⅰ※ 進化学Ⅰ 生命科学実験※ 総合理学実習※ 総合理学概論A※ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 専門演習Ⅲ 総合博物館※ 化学熱力学基礎 自然科学実験※
専	教授	機器分析化学※ 有機元素化学 物質科学実験※ 総合理学実習※ 総合理学概論B※ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 専門演習Ⅲ 有機化学 自然科学実験※ 教職実践演習(中・高)※	機器分析化学※ 有機元素化学 物質科学実験※ 総合理学実習※ 総合理学概論B※ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 専門演習Ⅲ 有機化学 自然科学実験※ 教職実践演習(中・高)※
専	教授	物理数学※ 天体物理学※ 地学概論※ 物質科学実験※ 総合理学実習※ 総合理学概論B※ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 専門演習Ⅲ 物理学基礎 自然科学実験※	物理数学※ 天体物理学※ 地学概論※ 物質科学実験※ 総合理学実習※ 総合理学概論B※ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 専門演習Ⅲ 物理学基礎 自然科学実験※
専	教授	進化学Ⅱ 生命情報学Ⅰ※ 総合理学実習※ 総合理学概論A※ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 専門演習Ⅲ 統計学B	進化学Ⅱ 生命情報学Ⅰ※ 総合理学実習※ 総合理学概論A※ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 専門演習Ⅲ 統計学B
専	教授	応用生理学※ 基礎生理学 総合理学実習※ 総合理学概論A※ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 専門演習Ⅲ 健康・スポーツ科学※	応用生理学※ 基礎生理学 総合理学実習※ 総合理学概論A※ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 専門演習Ⅲ 健康・スポーツ科学※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名			担当授業科目名
専	教授	情報数学B プログラミングⅡ※ 総合理学実習※ 総合理学概論B※ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 専門演習Ⅲ	専	教授	情報数学B プログラミングⅡ※ 総合理学実習※ 総合理学概論B※ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 専門演習Ⅲ
専	准教授	物性物理学※【隔年】 量子力学※ 物質科学実験※ 総合理学実習※ 総合理学概論B※ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 専門演習Ⅲ 電磁気学 力学 自然科学実験※	専	准教授	物性物理学※【隔年】 量子力学※ 物質科学実験※ 総合理学実習※ 総合理学概論B※ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 専門演習Ⅲ 電磁気学 力学 自然科学実験※
専	准教授	機器分析化学※ 物理化学 物質科学実験※ 総合理学実習※ 総合理学概論B※ 総合理学実験入門※ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 専門演習Ⅲ 化学基礎 自然科学実験※	専	准教授	機器分析化学※ 物理化学 物質科学実験※ 総合理学実習※ 総合理学概論B※ 総合理学実験入門※ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 専門演習Ⅲ 化学基礎 自然科学実験※
専	准教授	生物機能化学※ 総合理学実習※ 総合理学概論A※ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 専門演習Ⅲ 自然科学実験※	専	准教授	生物機能化学※ 総合理学実習※ 総合理学概論A※ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 専門演習Ⅲ 自然科学実験※
専	准教授	分子生物学Ⅱ 分子遺伝学 生命科学実験※ 総合理学実習※ 総合理学概論A※ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 専門演習Ⅲ 生物学 自然科学実験※ バイオサイエンス入門	専	准教授	分子生物学Ⅱ 分子遺伝学 生命科学実験※ 総合理学実習※ 総合理学概論A※ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 専門演習Ⅲ 生物学 自然科学実験※ バイオサイエンス入門

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名			担当授業科目名
専	准教授		専	准教授	
		情報数学A プログラミングI※ 総合理学実習※ 総合理学概論B※ 卒業研究I 卒業研究II 卒業研究III 専門演習I 専門演習II 専門演習III 線形代数学I 微分積分学			情報数学A プログラミングI※ 総合理学実習※ 総合理学概論B※ 卒業研究I 卒業研究II 卒業研究III 専門演習I 専門演習II 専門演習III 線形代数学I 微分積分学
専	准教授		専	准教授	
		物性物理学※【隔年】 量子力学※ 物質科学実験※ 総合理学概論B※ 自然科学実験※			物性物理学※【隔年】 量子力学※ 物質科学実験※ 総合理学概論B※ 自然科学実験※
専	准教授		専	准教授	
		生物機能化学※ 生化学 生命科学実験※ 総合理学実習※ 総合理学概論A※ 卒業研究I 卒業研究II 卒業研究III 専門演習I 専門演習II 専門演習III 自然科学実験※			生物機能化学※ 生化学 生命科学実験※ 総合理学実習※ 総合理学概論A※ 卒業研究I 卒業研究II 卒業研究III 専門演習I 専門演習II 専門演習III 自然科学実験※
専	准教授		専	准教授	
		統計力学【隔年】 物理数学※ 天体物理学※ 地学概論※ 物質科学実験※ 総合理学実習※ 総合理学概論B※ 総合理学実験入門※ 卒業研究I 卒業研究II 卒業研究III 専門演習I 専門演習II 専門演習III 波動・熱力学 自然科学実験※			統計力学【隔年】 物理数学※ 天体物理学※ 地学概論※ 物質科学実験※ 総合理学実習※ 総合理学概論B※ 総合理学実験入門※ 卒業研究I 卒業研究II 卒業研究III 専門演習I 専門演習II 専門演習III 波動・熱力学 自然科学実験※
専	准教授		専	准教授	
		生態測定学※ 生態学 総合理学実習※ 総合理学概論A※ 卒業研究I 卒業研究II 卒業研究III 専門演習I 専門演習II 専門演習III 自然科学実験※ 行動生態学			生態測定学※ 生態学 総合理学実習※ 総合理学概論A※ 卒業研究I 卒業研究II 卒業研究III 専門演習I 専門演習II 専門演習III 自然科学実験※ 行動生態学
専	准教授		専	准教授	
		情報処理発展※ 総合理学実習※ 総合理学概論B※ 卒業研究I 卒業研究II 卒業研究III 専門演習I 専門演習II 専門演習III 情報処理応用 情報処理基礎			情報処理発展※ 総合理学実習※ 総合理学概論B※ 卒業研究I 卒業研究II 卒業研究III 専門演習I 専門演習II 専門演習III 情報処理応用 情報処理基礎

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	講師	応用生理学※ 分子生理学 生命科学実験※ 総合理学実習※ 総合理学概論A※ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 専門演習Ⅲ 健康・スポーツ科学※
専	助教	プログラミングⅡ※ プログラミングⅠ※ 情報処理発展※
兼担	教授	総合神経科学※
兼担	教授	社会学A※
兼担	教授	社会人になるA 社会人になるB 自分とみんなで考える哲学
兼担	教授	文化に見る歴史
兼担	教授	学校教育心理学 心理学入門
兼担	教授	日本国憲法 法学入門
兼担	教授	平和論※ 琉球・沖縄の歴史・文化を識る
兼担	教授	教職実践演習(中・高)※ 高等学校教育実習 EM: Reading for Inspiration

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	講師	応用生理学※ 分子生理学 生命科学実験※ 総合理学実習※ 総合理学概論A※ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 専門演習Ⅲ 健康・スポーツ科学※
専	助教	プログラミングⅡ※ プログラミングⅠ※ 情報処理発展※
兼担	教授	総合神経科学※
兼担	教授	社会学A※
兼担	教授	社会人になるA 社会人になるB 自分とみんなで考える哲学
兼担	教授	文化に見る歴史
兼担	教授	学校教育心理学※ 心理学入門
兼担	教授	日本国憲法 法学入門
兼担	教授	平和論※ 琉球・沖縄の歴史・文化を識る
兼担	教授	教職実践演習(中・高)※ 高等学校教育実習

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	教授	放射線生物学※
兼任	教授	生物統計学
兼任	教授	経済学：経済学の考 え方
兼任	教授	健康・スポーツ実技
兼任	教授	教育学概論2 教職概論2 教育内容論1(教育 課程論) 現代教育の諸相
兼任	教授	CS: Grammar and Usage
兼任	教授	討論の中で問題を発 見する哲学 ドイツ語初級1 ドイツ語初級2
兼任	教授	国際政治と社会
兼任	教授	経営学：企業活動の 諸相
兼任	教授	文化に見る歴史
兼任	教授	教育制度論 次世代育成と地域の 課題※
兼任	教授	教育相談

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	教授	放射線生物学※
兼任	教授	生物統計学
兼任	教授	経済学：経済学の考 え方
兼任	教授	健康・スポーツ実技
兼任	教授	教育学概論2 教職概論2 教育課程論 現代教育の諸相
兼任	教授	CS: Grammar and Usage
兼任	教授	討論の中で問題を発 見する哲学 ドイツ語初級1 ドイツ語初級2
兼任	教授	国際政治と社会 EM: Reading for Inspiration
兼任	教授	経営学：企業活動の 諸相
兼任	教授	文化に見る歴史
兼任	教授	教育制度論 次世代育成と地域の 課題※ 教育社会学※
兼任	教授	教育相談

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼担	教授	平和論※ 東ヨーロッパの文化と歴史
兼担	准教授	心理学概論
兼担	准教授	社会学B
兼担	准教授	放射線生物学※
兼担	准教授	EM: Reading for Inspiration
兼担	准教授	次世代育成と地域の課題※
兼担	准教授	EM: Online Articles and Videos
兼担	准教授	EM: Popular Culture
兼担	准教授	平和論※
兼担	准教授	音楽と文化
兼担	准教授	フランス語初級1 フランス語初級2
兼担	准教授	放射線生物学※
兼担	准教授	現代教育の諸相※ 教育社会学

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼担	教授	東ヨーロッパの文化と歴史
兼担	准教授	心理学概論 学校教育心理学※
兼担	准教授	社会学B
兼担	准教授	放射線生物学※
兼担	准教授	EM: Reading for Inspiration
兼担	准教授	次世代育成と地域の課題※
兼担	准教授	EM: Online Articles and Videos
兼担	准教授	EM: Popular Culture
兼担	准教授	平和論※
兼担	准教授	音楽と文化
兼担	准教授	フランス語初級1 フランス語初級2
兼担	准教授	放射線生物学※
兼担	准教授	現代教育の諸相※ 教育社会学※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼担	准教授	
		死の文化学
兼担	准教授	
		GS: Grammar and Usage
兼担	准教授	
		中国語初級1 中国語初級2
兼担	准教授	
		平和論※ 国際政治と社会
兼担	准教授	
		私たちの暮らしと政治・行政・地方自治
兼担	講師	
		放射線生物学※
兼担	講師	
		放射線生物学※
兼担	講師	
		放射線生物学※
兼任	講師	
		数理情報科学各論
兼任	講師	
		都市と地域構造の地理学
兼任	講師	
		生命科学各論
兼任	講師	
		放射線生物学※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼担	准教授	
		死の文化学
兼担	准教授	
		平和論※ 国際政治と社会
兼担	准教授	
		私たちの暮らしと政治・行政・地方自治
兼担	講師	
		放射線生物学※
兼担	講師	
		放射線生物学※
兼担	講師	
		放射線生物学※
兼任	講師	
		数理情報科学各論
兼任	講師	
		都市と地域構造の地理学
兼任	講師	
		生命科学各論
兼任	講師	
		放射線生物学※
兼任	講師	
		EM: World News

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	講師	古生物学
兼任	講師	IS: The Arts AE: Interact Internationally CS: Presentation
兼任	講師	教育制度論
兼任	講師	健康・スポーツ科学
兼任	講師	健康・スポーツ科学
兼任	講師	囲碁に学ぶ
兼任	講師	適応生理学
兼任	講師	科学史

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	講師	古生物学
兼任	講師	CS: Grammar and Usage
兼任	講師	EM: Online Articles and Videos
兼任	講師	IS: The Arts AE: Interact Internationally CS: Presentation
兼任	講師	教育制度論
兼任	講師	健康・スポーツ科学
兼任	講師	健康・スポーツ科学
兼任	講師	囲碁に学ぶ
兼任	講師	適応生理学
兼任	講師	科学史
兼任	講師	EM: World News
兼任	講師	学校教育心理学※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) 年月
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	講師	
		教育方法論2
兼任	講師	
		総合博物学※
兼任	講師	
		社会学 A
兼任	講師	
		IS: Life & Work AE: Produce a Movie CS: Presentation
兼任	講師	
		物質科学各論
兼任	講師	
		放射線生物学※
兼任	講師	
		自然科学英語 グローバルコミュニケーション
兼任	講師	
		応用倫理学－生命倫理の現在

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) 年月
		<就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	講師	
		教育方法論2
兼任	講師	
		CS: Grammar and Usage
兼任	講師	
		総合博物学※
兼任	講師	
		社会学 A
兼任	講師	
		IS: Life & Work AE: Produce a Movie CS: Presentation
兼任	講師	
		物質科学各論
兼任	講師	
		放射線生物学※
兼任	講師	
		自然科学英語 グローバルコミュニケーション
兼任	講師	
		EM: Popular Culture
兼任	講師	
		EM: Popular Culture
兼任	講師	
		応用倫理学－生命倫理の現在
兼任	講師	
		EM: Reading for Inspiration

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	講師	生命情報学II
兼任	講師	宗教学入門
兼任	講師	発生生物学
兼任	講師	クロマチン生物化学
兼任	講師	解析学
兼任	講師	総合博物学※
兼任	講師	IS: Community AE: Improve Life Skills CS: Presentation

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	講師	中国語初級1 中国語初級2
兼任	講師	生命情報学II
兼任	講師	宗教学入門
兼任	講師	発生生物学
兼任	講師	クロマチン生物化学
兼任	講師	EM: Online Articles and Videos
兼任	講師	解析学
兼任	講師	総合博物学※
兼任	講師	EM: Reading for Inspiration
兼任	講師	IS: Community AE: Improve Life Skills CS: Presentation
兼任	講師	EM: Popular Culture

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	講師	なぜ憲法が必要なのか
兼任	講師	総合博物館※
兼任	講師	IS: Social Justice AE: Make a Difference in Your Community EM: World News EM: Reading for Inspiration
兼任	講師	総合博物館※
兼任	講師	理科教育法 1 理科教育法 2
兼任	講師	環境と社会・制度・政治・経済 ESDと地域の環境

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名
兼任	講師	EM: Popular Culture
兼任	講師	EM: Online Articles and Videos
兼任	講師	なぜ憲法が必要なのか
兼任	講師	IS: The Arts AE: Produce a Movie GS: Presentation
兼任	講師	総合博物館※
兼任	講師	IS: Social Justice AE: Make a Difference in Your Community AE: Improve Life Skills EM: World News EM: Reading for Inspiration
兼任	講師	総合博物館※
兼任	講師	理科教育法 1 理科教育法 2
兼任	講師	IS: Social Justice AE: Make a Difference in Your Community GS: Presentation
兼任	講師	環境と社会・制度・政治・経済 ESDと地域の環境

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 > 担当授業科目名
兼任	講師	総合博物学※
兼任	講師	総合神経科学※
兼任	講師	現代社会と人と地域のつながり
兼任	講師	総合博物学※
兼任	講師	健康・スポーツ科学
兼任	講師	欧州史の中の北欧史
兼任	講師	アメリカ史入門
兼任	講師	応用統計学
兼任	講師	健康・スポーツ科学
兼任	講師	生徒・進路指導論 特別活動論
兼任	講師	総合博物学※
兼任	講師	生態測定学※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 > 担当授業科目名
兼任	講師	EM: World News
兼任	講師	総合博物学※
兼任	講師	総合神経科学※
兼任	講師	現代社会と人と地域のつながり
兼任	講師	総合博物学※
兼任	講師	欧州史の中の北欧史
兼任	講師	アメリカ史入門
兼任	講師	応用統計学
兼任	講師	健康・スポーツ科学
兼任	講師	生徒・進路指導論 特別活動論
兼任	講師	総合博物学※
兼任	講師	生態測定学※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月 >
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師		兼任	講師	
		名古屋市政を通して みる現代社会の諸問題			名古屋市政を通して みる現代社会の諸問題
			兼任	講師	
					EM: Online Articles and Videos
兼任	講師	IS: Health & Well-being AE: Raise Health/Environmental Awareness CS: Presentation	兼任	講師	IS: Health & Well-being AE: Raise Health/Environmental Awareness CS: Presentation
兼任	講師		兼任	講師	
		健康・スポーツ科学			健康・スポーツ科学

- (注) ・ 申請書又は届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。その上で、既退職又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。
 - ・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。
 - ・ 専任、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、結めてください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

<ul style="list-style-type: none"> ・教職課程認定申請に係る審査対応の都合上、担当教員（「学校教育心理学」に 准教授（兼任）および 講師（兼任）、「教育社会学」に 教授（兼任））を追加し、オムニバス科目へ変更 ・教職課程認定申請に係る審査対応の都合上、「教育内容論1（教育課程論）」を「教育課程論」に名称変更（担当教員： 教授（兼任）） ・教育効果を高めるため、また、 准教授（兼任）辞任により、科目区分「英語」の科目の担当教員を追加。追加教員・担当科目は以下のとおり。 ・教授（兼任）「EM: Reading for Inspiration」、 講師（兼任）「EM: World News」、 講師（兼任）「CS: Grammar and Usage」、 講師（兼任）「EM: OnlineArticles and Videos」、 講師（兼任）「EM: World News」、 講師（兼任）「CS: Grammar and Usage」、 講師（兼任）「EM: PopularCulture」、 講師（兼任）「EM: Reading for Inspiration」、 講師（兼任）「EM: PopularCulture」、 講師（兼任）「EM: OnlineArticles and Videos」、 講師（兼任）「EM: Reading for Inspiration」、 講師（兼任）「EM: PopularCulture」、 講師（兼任）「EM: PopularCulture」、 ・講師（兼任）「EM: OnlineArticles and Videos」、 講師（兼任）「IS: The Arts」「AE: Produce aMovie」「CS: Presentation」、 講師（兼任）「AE: Improve LifeSkills」、 講師（兼任）「IS: SocialJustice」「AE: Make aDifference inYour Community」「CS: Presentation」、 講師（兼任）「EM: World News」、 講師（兼任）「EM: OnlineArticles and Videos」 ・「平和論」の担当教員数を変更（4名→3名（ 教授（兼任）を担当から削除）） ・「東ヨーロッパの文化と歴史」を隔年開講としたことに伴い、 教授（兼任）の就任（予定）年月を「平成30年9月」から「平成31年9月」に変更 ・「健康・スポーツ科学」の担当教員（ 講師（兼任））1名が就任辞退 ・ 准教授（兼任）辞任により、 講師（兼任）に変更（担当科目：「中国語初級1」「中国語初級2」） ・ 講師（兼任）就任辞退により、 講師（兼任）に変更（担当科目：「宗教学入門」）

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として捜査等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（A/C）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - ・ 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度、平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) 一① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
14 名	7 名

- (注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一により算出される専任教員数を記入してください。

(2) 一② 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計(A)	教授	准教授	講師	助教	計(B)	教授	准教授	講師	助教	計(C)
10	10	1	1	22	10	10	1	1	22	10	10	1	1	22
(10)	(10)	(1)	(1)	(22)						[]	[]	[]	[]	[]

- (注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、（ ）内に開設時の状況を記入してください。
- ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 - ・ 「**現在（報告書提出時）の完成年度時の計画**」には、「**現在（報告書提出時）の状況**」に記入した数字に、**教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) 一③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告書提出時（上記(B)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(C)）の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	0 名	0 名

- (注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成30年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
- ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) 一④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告書提出時）の完成年度時の計画(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{22}{22} = \boxed{100} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) 一⑤ 現在（報告書提出時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告書提出時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告書提出時）の状況(B)}} = \frac{0}{22} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由				
		該当なし								
合計 (D)			後任補充状況の集計 (E)							
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した**全ての専任教員**の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
		該当なし								
合計 (F)			後任補充状況の集計 (G)							
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)			後任補充状況の集計 (E) + (G)							
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{0}{0} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
		該当なし								
合計				後任補充状況の集計						
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員についてに記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
 ・ 兼任担当教員が担当する(している)場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (平成30年4月)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (△△年2月)			
設置計画履行状況 調 査 時 (△△年2月)			
設置計画履行状況 調 査 時 (△△年2月)			
設置計画履行状況 調 査 時 (□□年2月)			
設置計画履行状況 調 査 時 (□□年2月)			
設置計画履行状況 調 査 時 (●●年2月)			
設置計画履行状況 調 査 時 (●●年2月)			

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、**当該大学に付された意見を全て記入**するとともに、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行途中であれば「未履行」、履行済みであれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

7 その他全般的事項

<総合生命理学部 総合生命理学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>① 「卒業研究Ⅱ」の授業科目の概要</p> <p>(前略) また、卒業研究Ⅰの研究成果は各研究室の報告会で発表し、卒業論文としてまとめるための問題点や不足するデータを把握する。</p> <p>② CAP制対象外科目</p> <p>(1) 初年次教育科目 (社会人になるA, B)</p> <p>(2) 学期末に集中して開講される科目</p> <p>(3) 自由科目</p> <p>③ 英語力調査</p> <p>年2回 (前期と後期で各1回ずつ) 実施するTOEIC IPテストによる英語力調査を行う。</p>	<p>① 誤記があったため、以下のように変更する。</p> <p>(前略) また、卒業研究Ⅱの研究成果は各研究室の報告会で発表し、卒業論文としてまとめるための問題点や不足するデータを把握する。</p> <p>② 学習意欲の向上を図るため、以下のように変更する。</p> <p>(1) 初年次教育科目 (社会人になるA, B)</p> <p>(2) 学期末に集中して開講される科目</p> <p>(3) 自由科目</p> <p>(4) 単位認定制度による認定科目</p> <p>英語検定試験の級位・点数による単位認定科目等をCAP制対象外とすることで、優秀な学生の授業選択の幅を広げ、学習意欲の向上を図る。</p> <p>③ 実施方法を以下のように変更する。</p> <p>年度始め(4月)に実施するTOEIC IPテストによる英語力調査を行う。</p> <p>授業効果の測定方法について、全学的に見直し・改善を検討している。</p>

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策 (FD・SD活動含む)

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>本学では、各部局における部局単位のFD活動を実施するだけでなく、大学全体の教育の質の向上に資することを目的とする「全学教育機構」、全学的な教育改革の推進を目的とする「高等教育院」を設置している。また、SD研修等の検討及び実施については、事務局総務課が中心となって行っているほか、教育研究支援に資する研修等を各所管課と連携して実施している。</p> <p>b 委員会の開催状況 (教員の参加状況含む)</p> <p>平成29年度は、FD専門委員会を6回開催した。委員会には、全ての研究科から教員が参加している。</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>FD実施計画について</p> <p>教育改革フォーラムについて</p> <p>「授業についてのアンケート」について</p> <p>研究授業の実施について</p>
--

大学満足度調査結果について

FD・SD講演会について 等

② 実施状況

a 実施内容

- ・ 学生を対象とした大学満足度調査
- ・ 研究授業（教員相互の授業参観）
- ・ 新任教員研修
- ・ FD講演会
- ・ 教育改革フォーラム
- ・ 教育研究支援に資する研修

b 実施方法

- ・ 学生を対象とした大学満足度調査

教育内容や教育環境に対する学生の意向を把握するため、平成19年より毎年度大学満足度調査を実施し、結果を本学ウェブサイト（学内限定ページ）で公表している。

- ・ 研究授業（教員相互の授業参観）

学生に対する授業評価アンケートの総合評価等を踏まえて実施科目を選出し、参観教員からアンケートをとり、授業担当教員にフィードバックしている。また、学内広報誌「教育支援センターNEWS」に研究授業の実施状況や参観教員及び授業担当教員の感想等を掲載している。

- ・ 新任教員研修

新任教員を対象に、毎年4月に実施している。実施後は速やかに本学HPへ研修の様様や成果を掲載するとともに、参加者からアンケートをとり、その結果を分析し次回の改善に充てている。

- ・ FD講演会

全学対象の講演会・講習会を各年1回程度開催し、各学部・研究科の教員が参加している。開催後、速やかに本学HPへ講演会・講習会の様様や成果を掲載するとともに、参加者からアンケートをとり、その結果を分析し次回の改善に充てている。

- ・ 教育改革フォーラム

全学的なFD推進活動の一環として、教育改革に関するフォーラムを開催している。各回でテーマを設定し、教員・職員を交えた講演、グループ討論、パネルディスカッション等を実施している。

- ・ 教育研究支援に資する研修

大学等の管理運営及び教育研究支援に必要な知識等を身につけ、能力及び資質の向上を図るための研修、教職員として求められるマネジメント能力、コミュニケーション能力、事務処理能力等の向上を図るための研修などに体系的に取り組んでいる。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・ 学生を対象とした大学満足度調査

原則として、新2年生以上は年度当初の学部別ガイダンス時、前年度卒業生は卒業式当日に実施している。

- ・ 研究授業（教員相互の授業参観）

前期・後期の各学期に実施している。平成29年度は19科目で実施し、23名の参加があった。

- ・ 新任教員研修

平成29年度は4月26日に開催し、各学部・研究科から23名が参加した。

- ・ FD講演会

平成29年度は平成30年2月15日に開催し、教職員87名が参加した。

- ・ 教育改革フォーラム

平成29年度は平成29年9月8日（参加教職員73名）、平成29年12月15日（参加教職員84名）の計2回開催した。

- ・ 教育研究支援に資する研修

平成29年度の開催実績は以下のとおり。

- ・ 新規採用者研修（4月4日開催）／教職員256名参加 ※大学の管理運営に必要な知識に関する研修

- ・教員倫理研修会（6月28日・29日開催）／教職員176名参加
- ・研究不正防止等研修会（6月28日・29日開催）／教職員（大学院生含む）345名参加
- ・公的研究費不正使用防止研修会（6月28日・29日開催）／教職員（大学院生含む）157名参加
- ・コンプライアンス研修（9月11日開催）／職員34名参加
- ・近隣大学との合同研修（人権・倫理・ハラスメント、コミュニケーション等）（9月20日・27日開催）
／職員9名参加
- ・男女共同参画推進センター・病院看護部共催 講演会（11月1日）／教職員（学生含む）115名参加
- ・事務職員在職2・3年目研修（クレーム対応・ロジカルシンキング）（12月7日・11日開催）
／職員26名参加 ※一部近隣大学と合同開催
- ・ハラスメント研修会（3月20日開催）／教職員68名参加

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

大学満足度調査結果及び授業評価アンケート結果は、各部署のFD委員により構成されるFD専門委員会や全学会議において報告している。さらに、各部署のFD委員会やワークショップ等でも独自に結果分析を行い、授業手法の改善等に活用している。

また、講演会等の模様・成果は本学HPや学内広報誌等に掲載している。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

各学期末に実施している

b 教員や学生への公開状況、方法等

アンケート集計結果は各教員に通知するとともに、結果に対するコメントや次期授業に向けた改善案の提出を教員に対して義務づけている。アンケート結果については、教員からのフィードバックコメントとあわせて、本学ウェブサイト（学内限定ページ）で公表している。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

（3）自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本学部は、愛知県を含めた東海三県における理学部設置率が際立って低い課題を解決し、基礎科学をベースとした人材育成を推進するため設置された。自然科学と数理情報科学の知識を活かしイノベーション創出に貢献できる人材、グローバル視野を持ち名古屋市を中心とした地域の持続的発展を担う人材、そして理系の教育を担う人材を育成することを教育研究上の目的としている。生命科学を中心として理学の基礎を総合的に理解した上で各自の専門分野の教育研究を行い、既存の学問領域の枠を超えて柔軟な思考のできる人材を輩出するためのカリキュラムを実践している。

平成30年度入試を分析すると、受験者の75%以上が愛知県内に居住する者であった。また、通学圏内と考えられる岐阜県・三重県の居住者を加えると83%を超え、また志願倍率は4.1倍であった。設置申請にあたり実施した高校生対象のアンケート結果を裏付けるように、愛知県を含んだ中部地域において理学部の需要が存在することを改めて示した。入試は後期日程で行い、40名の入学者の理学部併願が55%と最も多く、設置目的が達成できていると評価する。

開設して1か月余りを経過したところであるが、教育研究上の目的を堅持し、設置計画に沿った教育を実践し、本学部及び本学に課せられた社会的使命・責任を果たして参りたい。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・平成28年3月 公表

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公表している

③ 認証評価を受ける計画

- ・認証評価機関である公益財団法人大学基準協会による平成28年度大学評価（認証評価）を受け、平成29年3月に、【評価の結果、貴大学は本協会の大学基準に適合していると認定する。】と評価された。

(注) ・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表(予定)の有無 (有 ・ 無)

b 公表(予定)有の場合の公表(予定)時期 (平成30年5月31日)

(注) ・ 「a ホームページに公表(予定)有無」には、5月1日時点で公表している場合、もしくは、今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

・ 「b 公表(予定)有の場合の公表(予定)時期」には、「a ホームページに公表(予定)有無」で「有」にマルを記入した場合のみ、時期を記入してください。

名古屋市立大学全学教育機構規程

(趣旨)

第1条 名古屋市立大学において、教育の質を管理し、あわせて教養教育、専門教育及び大学院教育を体系的に行うための機関として、名古屋市立大学全学教育機構（以下「機構」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 機構は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 教養教育及び専門教育の一体的な推進に関する事。
- (2) 全学教育プログラムに係る企画、立案及び実施に関する事。
- (3) 学部・研究科横断型教育プログラムの推進に関する事。
- (4) 専門教育及び大学院教育に係る理念、教育体制のあり方、連携その他諸課題に関する事。
- (5) 高等教育院の所管事業に係る各学部及び研究科との連携調整に関する事。
- (6) 学生に対する学修支援に関する事。
- (7) 情報通信技術を活用した教育支援に関する事。
- (8) その他機構が必要と認める事項。

(一部改正 平成30年達第37号)

(開設)

第3条 機構は、次に掲げる委員をもって構成する。

- (1) 理事（教育・学生・山の畑・市教育委員会連携）
- (2) 高等教育院長
- (3) 各研究科（看護学研究科を除く。）及び看護学部から選出された教授で、学長が任命する者
- (4) 事務局次長
- (5) 事務局教務企画室長
- (6) 学部事務室（山の畑事務室を含む。）の事務長
- (7) 医学・病院管理部教育研究課長
- (8) その他第4条に規定する機構長が必要と認めた者

(一部改正 平成30年達第37号)

(機構長)

第4条 機構に機構長を置き、理事(教育・学生・山の畑・市教育委員会連携)をもって充てる。

2 機構長は、理事長の命を受け、機構の業務を統括する。

(一部改正 平成30年達第37号)

(副機構長)

第5条 機構に副機構長を置き、高等教育院長をもって充てる。

2 副機構長は、機構長を補佐し、機構長が欠けたとき又は事故があるときは、その職務を代理する。

(一部改正 平成30年達第37号)

(任期等)

第6条 第3条第3号に規定する委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 前項に規定する委員に欠員が生じた場合における後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(招集及び議事)

第7条 機構の会議は、機構長がこれを招集し、機構長がその議長となる。

2 機構会議は、委員の過半数の出席がなければ、会議を開くことができない。

3 機構会議の議事は、出席者の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 議長が必要と認めたときは、会議に委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

(専門委員会)

第8条 第2条各号(ただし、第5号及び第6号を除く)に掲げる事業に係る個別の事項を推進するため、機構に専門委員会を設置することができる。

2 前項の専門委員会の運営に関し必要な事項は、機構長が定める。

(庶務)

第9条 機構の庶務は、事務局教務企画室において処理する。

(委任)

第 10 条 この規程に定めるもののほか、機構の運営に関し必要な事項は、理事長が別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 名古屋市立大学大学教育推進機構規程(平成 24 年公立大学法人名古屋市立大学達第 45 号)は、廃止する。
- 3 名古屋市立大学教育支援センター規程(平成 23 年公立大学法人名古屋市立大学達第 14 号)は、廃止する。

附 則

この規程は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、発布の日から施行し、平成 29 年 4 月 1 日から適用する。

附 則 (平成 30 年公立大学法人名古屋市立大学達第 37 号)

この規程は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

名古屋市立大学高等教育院規程

目次

- 第1章 総則（第1条―第3条）
- 第2章 組織（第4条・第5条）
- 第3章 運営会議（第6条―第8条）
- 第4章 委員会等（第9条―第12条）
- 第5章 その他（第13条・第14条）
- 附則

第1章 総則

（趣旨）

第1条 この規程は、名古屋市立大学学則（平成18年名古屋市立大学学則第1号。以下「学則」という。）第5条の規定に基づき設置する名古屋市立大学高等教育院（以下「高等教育院」という。）の管理及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

（目的）

第2条 高等教育院は、教養教育及び全学語学教育の企画及び実施について統括するとともに、教育及び学生支援情報を管理し、その活用を図ることにより、名古屋市立大学（以下「本学」という。）における教育改革を全学的に推進することを目的とする。

（事業）

第3条 高等教育院は、次に掲げる事業を行う。

- (1) 全学教育改革の推進に関すること。
- (2) 教育の質保証に関すること。
- (3) 初年次教育の企画に関すること。
- (4) 教養教育に関すること。
- (5) 全学語学教育に関すること。
- (6) 教学に関する I R（本学における様々な情報を収集、分析することにより、学内の意思決定や改善活動を支援する取り組み（インスティテューショナル・リサーチ）をいう。）に関すること。
- (7) 全学的に行う F D（教育方法等を改善するための組織的な研究、研修等に取り組む活動（ファカルティ・ディベロップメント）をいう。以下同じ。）に関すること。
- (8) 教育支援に係る S D（大学等の運営に必要な知識及び技能を身に付け、能力及び資質を向上させるための研修等の取り組み（スタッフ・ディベロップメント）をいう。）の推進に関すること。
- (9) 学生の育成及びキャリア教育に関すること。

- (10) 前各号に掲げるもののほか、前条に掲げる目的を達成するために必要な事業。
- 2 前項第5号の事業は名古屋市立大学国際交流センター規程（平成20年公立大学法人名古屋市立大学達12号）に規定する国際交流センターと、前項第9号の事業は名古屋市立大学キャリア支援センター規程（平成19年公立大学法人名古屋市立大学達7号）に規定するキャリア支援センターと連携を図りながら行うものとする。

第2章 組織

（高等教育院長等）

第4条 学則第8条第3項の規定に基づき、高等教育院に高等教育院長（以下「院長」という。）を置く。

- 2 高等教育院長は、理事長の命を受け、高等教育院を代表し、その業務を統轄する。
- 3 高等教育院に高等教育院副院長（以下「副院長」という。）若干名を置くことができる。
- 4 副院長は院長を補佐し、院長が欠けたとき又は院長に事故等がありその職務を行うことができないとき、その職務を代理する。この場合において、副院長が2名以上置かれるときは、院長があらかじめ指定する順序に従いその職務を代理する。
- 5 院長及び副院長の任命については、別に定める。

（事務組織）

第5条 高等教育院の事務は、事務局教務企画室が行う。

第3章 運営会議

（高等教育院運営会議）

第6条 高等教育院に高等教育院運営会議（以下「運営会議」という。）を置く。

- 2 運営会議は次の事項を審議する。
- (1) 高等教育院運営の基本方針に関すること。
 - (2) 高等教育院に関する要綱等の制定改廃に関すること。
 - (3) 第3条第1項各号に掲げる事業に関すること。
 - (4) その他高等教育院に関し必要な事項。

（委員等）

第7条 運営会議は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 院長
- (2) 副院長
- (3) 高等教育院の教員
- (4) 事務局教務企画室長
- (5) その他院長が必要と認めた者

- 2 運営会議は、院長が招集してその議長となる。
 - 3 運営会議に副議長を置き、副議長は委員のうちから議長が指名する。
 - 4 議長に事故があるとき又は欠けたときは、副議長がその職務を代理する。
- (議事)

第8条 運営会議は、委員の過半数の出席がなければ開くことができない。

- 2 運営会議の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長が決する。
- 3 運営会議が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め、説明または意見を聞くことができる。

第4章 委員会等

(教養教育運営委員会)

第9条 高等教育院に教養教育運営委員会を置く。

- 2 教養教育運営委員会は次の事項を審議する。
 - (1) 教養教育に係る企画、立案及び実施に関すること。
 - (2) 教養教育に係る自己点検及び評価に関すること。
 - (3) 教養教育に係るFDの企画、立案及び実施に関すること。
 - (4) 教養教育に係る部局間協力の推進に関すること。
 - (5) 教養教育担当教員(非常勤講師を含む。)の配置に関すること。
 - (6) 教養教育に係る予算及び学修環境の整備に関すること。
 - (7) その他教養教育運営委員会が必要と認める事項。

(委員等)

第10条 教養教育運営委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 院長
 - (2) 第12条第2項に規定する部会長
 - (3) 各学部から選出された教授又は准教授 各1名
 - (4) 高等教育院教員のうち院長が指名する者 1名
 - (5) 事務局教務企画室長
- 2 教養教育運営委員会に委員長を置き、院長をもって充てる。
 - 3 委員長は、教養教育運営委員会を招集し、その議長となる。
 - 3 議長が必要と認めたときは、教養教育運営委員会に第1項に掲げる者以外の者を出席させ、説明又は意見を聴くことができる。
 - 4 第1項第3号及び第4号に規定する委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(議事)

第11条 教養教育運営委員会は、委員の過半数の出席がなければ開くことができない。

- 2 教養教育運営委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数

のときは議長が決する。

(部会等)

第12条 第3条第1項第4号に掲げる事業に係る個別の事項を実施するため、教養教育運営委員会に、別表の部会を置く。

2 部会に部会長を置き、別表に規定する構成員の中から教養教育運営委員会委員長が指名する。

3 部会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

第5章 その他

(庶務)

第13条 運営会議、教養教育運営委員会の庶務は、事務局教務企画室において処理する。

(委任)

第14条 この規程に定めるもののほか、高等教育院の運営に関し必要な事項は、院長が定める。

附 則

1 この規程は、平成30年4月1日から施行する。

2 名古屋市立大学教養教育センター規程（平成28年公立大学法人名古屋市立大学達第26号）は、廃止する。

3 名古屋市立大学語学センター規程（平成28年公立大学法人名古屋市立大学達第27号）は、廃止する。

別表

部会名	構 成 員
人文部会	人文系科目に関する分野の専任教員
社会部会	社会系科目に関する分野の専任教員
自然部会	自然系科目に関する分野の専任教員
語学部会	語学系科目に関する分野の専任教員
数理情報部会	数理情報系科目に関する分野の専任教員
健康科学部会	健康科学系科目に関する分野の専任教員